

はじめに

農林水産政策研究所は、平成 15 ～ 17 年度でプロジェクト研究「ライフスタイルの変化に対応した農山漁村地域の再生方策に関する研究」を実施している。本プロジェクト研究の目的は、都市との交流を通じて農山漁村地域の再生を図るために、新たなライフスタイルの実現や都市住民の農山漁村地域への参入を一層促進していくための条件整備方策を解明することにある。

農山漁村への参入で近年注目されているのが、U・I ターンの動向であろう。雇用情勢や都市住民の農村に対する意識の変化を背景に、農業の新規参入をはじめ、農村での新しいライフスタイルを実現する動きが出てきている。本報告書はこうした動きのなかから、公的機関が行う定住支援に着目し、I ターンの実態を調査分析したものである。なお、ここで対象とする I ターンは農業だけではなく、田舎暮らしや農村起業など幅広く捉えている。それは、農村という場に都市住民が何を期待し、そこでどのような生き方を実現しようとしているのか理解しておきたいと考えたからである。そうしたニーズを広く把握することが、新しい農村社会を展望するうえで有益なヒントとなるであろう。

しかし、このような調査手法は対象者が多方面に及ぶため、データ収集をはじめ、分析や執筆に多くの時間を割くこととなった。早めの成果を期待していた方々には、多大なるご心配とご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げたい。また、本報告書は I ターンの方々をはじめ、関係機関のご協力なしには刊行できなかった。なかでも、多くの調整業務をしていただいた島根県邑智町役場、同町定住推進員の皆様には大変お世話になった。深く感謝申し上げる次第である。

本報告書が I ターンをめぐる定住問題の理解や今後の定住施策に参考となれば、幸いである。

平成 17 年 3 月

農林水産政策研究所